

(HP公開様式)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：未来やまなし政務調査

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 会派名 未来やまなし 調査者 土橋亨、清水喜美男、古屋雅夫、笠井辰生
調査内容	1 調査目的 ・島根県庁 (1) 「しまね IT 産業振興事業」→島根県では全国に先駆け、2007年から産官学金が一体となって IT 支援施策を展開し大きな成果を上げている。今回その内容を調査し、今後の山梨県産業振興に向けた議員活動の参考にすることを目的とする。 (2) 「ウェルネスツーリズム」→「人生選択の時に選ばれる島根へ」を合言葉に、総合戦略として「島根創生計画」を設定し、島根独特の気候風土を最大限に生かした施策を展開している。 今回その内容を調査し、山梨県のコンセプトである「豊かさの実感」の実現に向けた議員活動の参考にすることを目的とする。 ・石見銀山 2007年にユネスコ世界文化遺産に登録された石見銀山遺跡の保全と観光への取り組みを、世界文化遺産富士山の課題に活かすことを目的とする。 ・美郷町 (1) 本県も鳥獣害被害ならびに駆除対策は大きな課題。 三郷町における獣害（イノシシ）対策の抜本的改革内容の調査 (2) 地方（三郷町）におけるインドネシアバリ島・マス村との交流を活かしたまちづくりの取り組みを本県にも生かす。

	<ul style="list-style-type: none"> ・江津市 人口減少、伝統産業の衰退、若者の流出といった地域課題に対し、企業誘致より起業誘致を掲げて2010年から始められたビジネスプランコンテスト（Go-Con）の取り組みを、山梨県の同様の課題に活かすことを目的とする。 <p>2 調査テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興 ・世界遺産保全 ・地域活性化 ・人材育成 <p>3 調査期間</p> <p>令和5年10月25日～令和5年10月27日（2泊3日）</p> <p>4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名]</p> <p>島根県松江市、島根県太田市、島根県美郷町、島根県江津市</p> <p>5 その他</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>[調査テーマ]</p> <p>産業振興</p>	<p>[調査項目]</p> <p>しまね IT 産業振興事業について</p> <p>[選定理由]</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 産官学金がうまく連携し、IT人材育成を推進している ② 具体的なバックアップ体制が機能している ③ 島根県内の教育機関との協力関係が素晴らしい 企業の技術力・商品力の強化支援策が素晴らしい
----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>[調査テーマ] 世界遺産保全</p>	<p>[調査項目] 世界遺産石見銀山保全の取り組みについて</p> <p>[選定理由] 富士山の世界文化遺産登録から10年が経過し、オーバーツーリズムや景観の改善など、イコモスからの厳しい指摘への対策が求められている。そこで、富士山より6年早く世界文化遺産に登録された石見銀山の、環境に配慮した持続可能な取り組みの事例を調査し、富士山の環境保全に活かすため</p>
<p>[調査テーマ] 地域活性化</p>	<p>[調査項目] 地域外交流と獣害対策について</p> <p>[選定理由] (1) 本県も中山間地が多く、過疎化の流れの中で人口減少、鳥獣（イノシシ・シカ・サル等）による農作物被害は後を絶たず、駆除対策は大きな課題であることから。 (2) インドネシアバリ島マス村との交流を通じて、「文化交流」、「外国人技能実習制度に関する協定」の締結を行い実習生が町内で働いている事例内容は本県にも通じるため。</p>
<p>[調査テーマ] 人材育成</p>	<p>[調査項目] 企業を育む「江津方式」について</p> <p>[選定理由] 人口減少、産業の衰退は地方都市共通の課題だが、企業誘致より起業誘致を掲げて2010年から始められたビジネスプランコンテスト(Go-Conn) 出場者の起業が相次ぎ継続しており、その工夫を調査し本県の同様の課題に活かすため。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
<p>しまね IT 産業振興事業について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>島根県松江市 島根県庁 産業デジタル推進室長 企業立地課 調整監 観光振興課 課長 調整監 課長補佐</p> <p>[選定理由]</p> <p>(1) 島根県の産業構造や、島根県人の「真面目で粘り強い」 気質が、山梨県とよく似ている</p> <p>(2) 他県に先駆け、永年にわたり技術者育成をしっかりと推 進している</p> <p>(3) 産官学金における横の連携に多くの工夫があり、良好 な状態が続いている</p> <p>(4) オープンソースにおける積極的なボランティア活動 が大きな効果に繋がっている</p>
<p>世界遺産石見銀山保全の 取り組みについて</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>島根県太田市、石見銀山世界遺産センター 石見銀山課 課長 主任</p> <p>[選定理由]</p> <p>世界文化遺産の石見銀山遺跡の歴史と全容の情報を得るた め、資料の展示がなされているビジターセンターを訪問し、そ の上で現地を視察し説明を受けたいと思う。</p>

<p>地域外交流と獣害対策について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 島根県邑智郡美郷町 美郷町役場 美郷町企画推進課 係長 美郷バレー課 参事</p> <p>[選定理由] 島根県は人口約 65 万人、山梨県の人口約 79 万人と人口規模で同じ自治体であること。すべてが参考になると考えた。 また人口の減少による「まちづくり」、地域課題に積極的に取り組んでいる自治体（三郷町）であることから選定した。</p>
<p>企業を育む「江津方式」について</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名] 島根県江津市、江津市役所、「マタニティハウス花」 江津市役所地域振興課 係長</p> <p>[選定理由] ビジネスプランコンテスト（G o - C o n）事業の経緯と実績を市役所にて伺い、実際の起業の事例として9月にオープンしたばかりの「マタニティハウス花」を視察させていただける。</p>

5 調査内容

○調査テーマ：(産業振興)

<p>調査項目</p>	<p>しまね IT 産業振興事業について</p>		
<p>調査都市等</p>	<p>島根県松江市、島根県庁</p>	<p>調査日</p>	<p>10月25日</p>
<p>調査結果概要</p>	<p>(1) 技術人材の育成には時間がかかるが、島根県では早くから「長期人材育成計画」を制定し、曖昧になりがちな PDCA をしっかりと確実に回していた</p> <p>(2) 産官学金の効率的連携のため、きめ細かな情報交換システムを構築し運営していた</p> <p>(3) 島根県内企業の生産性向上に向け、相互のノウハウ提供や支援活動が非常にフレンドリーに実行されていた</p> <p>(4) 島根県の将来に向け、学生や若い世代のデジタルイノベーション</p>		

	ン事業が確実に推進されていた (5) 人材移住促進、UI ターン転職などの支援事業を推進する相談員 が高いスキルを保有していた
--	-----------------------------------------------------------------------

○調査テーマ：(世界遺産保全)

調査項目	世界遺産石見銀山保全の取り組みについて		
調査都市等	島根県太田市、石見銀山世界遺産センター	調査日	10月25日
調査結果概要	<p>昭和44年に国の史跡に指定された後、昭和52年にはまちなみ保存条例を設け、無電柱化など、街並みや景観の保全に取り組んできた。世界遺産登録後に観光客が急増し、観光バスの乗り入れ制限などを行った。レンタサイクルや「ぎんざんカート」など、パークアンドライドによるエリア散策を進め、適正な観光客数の維持に努めている。インバウンドについては、対応はまだあまり進んでいない。</p>		

○調査テーマ：(地域活性化)

調査項目	地域外交流と獣害対策について		
調査都市等	島根県邑智郡美郷町、美郷町役場	調査日	10月26日
調査結果概要	<p>「山くじら」(イノシシ)の駆除対策の抜本的改革を実施、夏イノシシ資源利活用＝捕獲したイノシシを食肉加工施設へ。また皮革を活用・「青空サロン」で女性団体が作成するカバン、財布も人気商品。それらを通じ地域づくり・コミュニティビジネス＝ブランド化への道筋を作る。そして産・官・学・民が集う鳥獣害対策版シリコンバレー、通称「三郷バレー」構想に取り組んでいた。</p> <p>・特に麻布大学三郷町はフィールドワーク開設(2021)、地域課題と大学研究領域が合致。①イノシシ被害に対する、獣医学を中心とする研究に役立つフィールドワークセンターは研究・実益・の双方に最適なセンター立地となっている。②町が所有している施設を大学に貸し出す等包括協定の締結がなされていた。</p> <p>インドネシアバリ島マス村との交流(友好協定30年を迎える)を通じて、「文化交流」、「外国人技能実習制度に関する協定」の締結を行い</p>		

	<p>実習生 5 名が町内の農業、福祉分野で実習研修を受けていた。</p> <p>文化面では、美里町ガムラン楽団を 2021 年に発足、文化交流の中心となっていた。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------

○調査テーマ：(人材育成)

調査項目	企業を育む「江津方式」について		
調査都市等	島根県江津市、江津市役所、「マタニティハウス花」	調査日	10月26日
調査結果概要	<p>江津市は石州瓦の産地であり、赤瓦の伝統的な街並み景観を有する都市である。日本製紙の江津工場の存在も大きいですが、大手企業の廃業や撤退を受けて、平成 22 年に企業誘致に代わる起業人材の誘致を新たな目標に掲げ、国の補助金を活用して同年にビジネスプランコンテスト（G o - C o n）を開始した。ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスをターゲットに起業のアイデアを募集して、その実現をサポートすることで人材を誘致し、雇用の創出を図ると共に、NPO「てごねっと石見」を設立して産学官の連携による起業支援の自走を目指している。応募者を支援する企画のブラッシュアップ勉強会や、相談・アドバイスのネットワークを構築し、12年間で30件ほどのプランが形になっている。9月にオープンしたばかりの「マタニティハウス花」は、2022年度のG o - C o n入賞者で助産師のオーナーが、産後ケアに困っている市内の母親たちの相談に応えたいという思いから起業した。コンテストの応募を通じて、様々な課題やギャップを一つ一つクリアし、施設の開所を実現している好事例である。</p>		

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

議員氏名	所感及び活用の考え方
土橋亨	<p>知事の旗振りでIT産業の人材育成が進められており、技術者を育てるエコシステムの構築はわが県でも参考にしたいと思う。</p> <p>石見銀山は歴史的な景観を維持しながら、ゆっくりとした観光客の受け入れが実現されていると感じた。世界遺産富士山の文化的価値を観光客に伝え、史跡巡りなど、5合目に上るだけにとどまらない観光の提案が必要だと思う。</p> <p>イノシシを山くじらとしてブランド化する取り組みや、ビジネスプランコンテストの開催で起業を後押しするなど、地域を盛り上げようという人材の育成を行政がうまく行っている例を見ることができて良かった。</p>
清水喜美男	<p>良く練られた「島根創生計画」には、学ぶことが多かった。</p> <p>特に、島根県独自の風土や地理的要因を最大限に活かした「ハガネ、ITから美肌まで」～という施策コンセプトは目から鱗であった。</p> <p>「美肌県」というフレーズは非常に故郷愛に溢れており、観光立件を標榜する山梨県にとって、学ぶべき視点であると感じた。</p> <p>また、産業界や行政、小中学校、大学、金融機関などの横の繋がりが極めてうまく進行していたが、非常に高い志を持ったキーマンの存在が確認でき、全ての原点は「人」であることを改めて感じた。</p> <p>島根県は山梨県とよく似た自治体ではあるが、「人・物・金・仕組み・手段」などにつき、学ぶべき内容が多く、今後の議員活動に活かしていきたい。</p>
古屋雅夫	<p>(しまね IT 産業振興事業)</p> <p>人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根を実現するため、IT産業の振興を通じて、魅力ある雇用の場を創出し、若者の県内定着につなげる事業である。</p> <p>■島根県は離職率 3.5%と低く、また国民年金納付率及び都道府県税納付率が全国1位、まじめで勤勉な県民性、加えて女性の有業率 85%で全国1位という特色を活かしている。地域を支え、地域で活躍する若者の育成と県内定着を目的としたコンソーシアムが産学官で行われており、まさに本県における課題と精通するところがあり、今後、政策提案していきたい。</p>

〈美肌ウエルネスツーリズム〉

・ポーラ・オルビスホールディングス及び ANA ホールディングスと連携した「美肌ウエルネスツーリズム」の開発、幅広い客層対応した旅行商品造成支援、プロモーションである。

・温泉と肌に関する調査研究、情報発信を行っている。

■本事業は、「美肌県しまね推進補助金」事業を通じた観光誘致・観光PR の取り組みとしてさらなる効果を期待したい。あわせて本県の観光事業推進の参考としたい。

「世界文化遺産・石見銀山」の保全等

「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、2007年に鉱山遺跡としてはアジアでは初めて世界遺産に登録された。その規模は529ha（東京ディズニーランド約11個分）で、当時を彷彿とさせる趣深い町並みには今も人々が暮らし、歴史を伝え残している。

石見銀山の風景には全て意味があるという。「石見銀山観光ワンコインガイド」などを利用して、歴史と暮らしを学ぶことができる。

■世界遺産富士山を抱える山梨県として、石見環境保全、観光客対策などについて太田市石見銀山課長から、丁寧な説明をいただき、よく理解できた。現地視察では銀山内の視察はできなかったが、周辺地域・大森銀山地区の保全など地域を守り、活かし、引き継ぐ活動はとても参考になり、今後活かしていきたい。

〈町と麻布大学で地域課題に取り組む〉

麻布大学と三郷町は、フィールドワーク開設（2021）、地域課題と大学研究領域が合致している。イノシシ被害に対する、獣医学を中心とする研究に役立つフィールドワークセンターは、研究・実益の双方に最適なセンター立地となっている。町が所有している施設を大学に貸し出す等、包括協定の締結がなされている。

〈バリ文化振興と山くじらブランド〉

バリ島マス村と三郷町における友好協定の締結を機に、移住夫婦が地域活性化に貢献（文化、技能実習生の受け入れ等）

・山くじら（イノシシの肉）商標登録、町に山くじら推進課を設置

・捕獲⇒食肉加工施設へ、また皮革を活用、「青空サロン」で女性団体が作成するカバン、財布も人気商品

■三郷町の鳥獣害対策を踏まえた山くじら課の設置、また三郷バレー

	<p>構想、麻布大学フィールドセンター設置を中心に調査を実施した。山梨県の中山間地を抱える自治体の課題として、まさに先進的な取り組みをされていた。三郷バレー構想、日本をリードする「鳥獣害対策版シリコンバレー」は、産官学民が自発的に集い、互いが刺激し合いながら、地域の活性化の革新につなげる取り組みであり、熱いリーダーである参事に敬意を表する。</p> <p>〈起業を育む「江津方式」〉</p> <p>人口 22,000 の江津市が「起業しやすい町」として全国に名を馳せた。古民家レストラン、観光農園、産後ケア事業、動物を預かるペットシッター事業など、市が「Go—Con」と名付けたビジネスプランコンテストは、当初から市内の出場者の起業が相次いだ。2023年2月まで28組。その7割近くは起業などを機にUターンしている。</p> <p>■江津市の「守り」と「攻め」の定住対策</p> <p>「守り」の空き家バンク対策は空き家所有者・宅地建物取引業者・購入希望者と行政の連携による定住・Uターン対策である。</p> <p>2006年～2022年間空き家バンク利用者 506人、Uターン者数 283人と素晴らしい実績を上げていた。</p> <p>「攻め」の定住施策（人材誘致策）として、地域に思いをもった、いわゆる“小商い”（ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス）を始める面白い人が集まること、住み続けたい町（定住）を目指す姿を明示して取り組んでいた。</p> <p>具体的には、ビジネスプランコンテスト（Go—Con）。ビジネスプランコンテスト優秀賞（賞金 100万円）に選ばれた「マタニティハウス花」代表である助産師の事業所を訪ねた。地域課題を解決するために、自分なりのアイデアを出す場がなかった中で、ビジネスプランコンテスト（Go—Con）というアイデアを出す場を創出し、そのアイデアに対して江津の人たちが関心を寄せて一緒に考えるてくれる機会、これが江津の財産である Go—Conの仕組みである。まさに山梨県内の自治体でも参考とすべき事業の一つであり、あらゆる機会を通じて活性化策の実例として提案していきたい。</p>
<p>笠井辰生</p>	<p>1. しまねIT産業振興事業</p> <p>島根県のITへの取り組みはゼロからのスタートとのことだったが、プログラミング言語Rubyの開発者が在住していたことから、Rubyを軸にしたオープンソースのプラットフォームを構築し、企</p>

業誘致を行い、産官学の連携がなされている。

R u b y の聖地化に島根大学や松江高専が積極的に取り組み、IT企業の協力で小中高でもR u b y 教室が開催され好奇心のサポートがなされているとのこと。人材育成を島根モデルとして、OBによる後輩の指導というエコシステムができているというのは参考にしたい。

2. 世界文化遺産石見銀山の保全

住民の生活と、遺跡・景観の保全、観光資源化のバランスに悩みながらも地道に対応されていると感じた。オーバーツーリズムには、やはりしっかりと一定の規制をかけ（バスの通行制限など）、観光客の満足度を上げる取り組みを積み重ねることが必要と思わされる。

3. 地域外交流と獣害対策

30年を超えるというバリ島マス村との国際交流から、薬草調味料サンバルを商品化、文化交流も盛ん。町を流れる江の川（別名中国太郎）では、カヌー競技施設を整備（2025年インターハイ、2030年国民スポーツ大会会場）、おおち山くじらは、獣害イノシシの肉を美味しく加工する工夫を行いブランド化、皮革商品も開発し販売している。町職員のアイデアが事業化されている点が興味深い。

4. 起業を育む江津方式

企業誘致より起業誘致というコンセプトの着眼点と、企業家育成をエコシステムとして実現している点が大変参考になる。当然すべての起業が成功しているわけではないにしても、チャレンジの場を提供し、ディスカッションを通じて起業プランを磨き上げ、実際の起業へのサポートをする仕組みは、応募者にとっても心強いはず。サポートを担うNPOの自走を促し、雇用確保と定住促進につなげる取り組みのまさにモデル事業である。

6 調査状況（写真）

- R5年10月25日 調査先（ 島根県庁 ）



島根県庁にて聞き取り、意見交換

- R5年10月25日 調査先（ 石見銀山世界遺産センター ）



石見銀山世界遺産センターの
○ 見学と解説

- R5年10月26日 調査先（ 美郷町役場 ）



○ R5年10月27日 調査先（ マタニティハウス花 ）



マタニティハウス花にて
